

市民が語る都留市の健康

V

子育てママのメッセージ

今回は、二〜三歳の子どもがいる子育て真っ最中のママに、子育てのことを語ってもらいました。

♥しつけ(しかり方等)遊び方これでもいいのか心配!

保健婦 子育てしていて心配なこととは何ですか。

ママ 同じくらいの子とどう遊ばせたらいいのかわかりません。

ママ 近くに友人(子どもにとってもママにとっても)がいまません。

ママ 子どもとてしかる時たいていいのですか?

ママ ひとりっ子だから、わがままにさせないことがプレッシャーです。

ママ おむつがとれないことです。

ママ 親から離れられないことが困ります。

ママ 食事を食べさせないと食べません。

ママ 以前に比べると心配な事が減りました。

♥心配なことは親や友人に相談しながら、ひとつひとつ場面を乗り越え自分なりの子育て模索しています。

保健婦 心配なことをどう解決していますか。

ママ 子育てサークルの仲間に、公園で子どもを遊ばせているとき友人に、相談しています。

ママ 育児書をみます。

♥パパはママにとって心の支え子どもにとっては良き遊び相手

保健婦 子育ての中でパパの役割は何ですか。

ママ おふろに入れることです。

ママ 良き遊び相手(ママにはできないあぶない遊び)です。

ママ おもちゃをほしがる子どもにとってパパのダメは絶対です。



ママ 仕事が休みの日ぐらいは一緒に遊んでほしいと思います。

ママ 家事をしているときや買い物時、相手をしてくれます。

保健婦 パパの存在は、ママにとっても子どもにとっても大きな支えなのです。

ママ 子育てに悩むママを優しく見守ってほしいものです。

ごっこ遊びにも大事な意味が:

器から器へ移しかえたり、スコップですくって器の中へ入れ分けていく遊びの中には、何か具体的なイメージがあって、それを反映した子どもなりの意味があるわけです。

おとなのしごとへの憧れの心、その憧れをひとつひとつ実現しながら成長してきた子どもたち、イメージの力はパーソナリティーを形成するうえで大きな力となります。再現してみたい生活経験の豊かさをすることが、二〜三歳のこの時期に大切になるわけです。

見のがせません

1〜2歳児

一歳をすぎると、心の発達は一変してきます。ことばの種類も多くなり、簡単な単語を使ったり人との交わりもできるようになります。この時期は喜怒哀楽の感情の基礎のできる大切な時期ですが、それにはお母さんをはじめ、身近な大人とのふれあいが大切です。

社会性の芽ばえ

おとなの感情や意志をあるていど理解できます。親の顔をうかがいながら、いたずらするし、大人のしぐさをまねるなどの行動がみられます。

自我の芽ばえ

何ごとにもまず自分を主張し、自分でやりたがります。いやなことをさせられると、はっきり態度で拒絶するようになります。お母さんとの関係は強く、お母さんが他の子どもに興味を示したりすると、やきもちをやきます。また、好きな相手には自分からすり寄って、親愛の情を示します。

協調性の芽ばえ

自分以外の子どもに興味を示し、近づいていこうとします。でも、友だち関係は初歩的で、まだいっしょには遊べません。おもちゃをとり合ったり、他の子のおもちゃ



を欲しがったりしながら、うまくやることをおぼえて行く段階です。

ことばの発達には個人差があります

できるだけ話しかけましょう。お母さんの話すことから言葉をおぼえていく

赤ちゃんが初めてことばをしゃべるのは、だいたい生後十ヵ月から、一歳二〜三ヵ月の間です。そして一歳半くらいになると、単語の数も十くらいにふえます。二歳近くになると、早い子どもは「ブキタ」「ワンワンイナイ」など、二語文をしゃべる子もいます。子どもが言葉をしゃべり始めたなら、できるだけ受け答えをしましょう。ただ、ことばの発達の時期には個人差がありますから、遅くても心配ありません。話しかけても反応しない、ことばを理解しない、ほかの子と遊ばないなどの様子があれば、医師に相談してください。